

ATTENTION

米国と日本の株式市場の規模の違いを把握しておこう！

日米株式市場比較				日米時価総額ランキング				
	米国		日本	No.	米国	億ドル	日本	億ドル
	NYSE証券取引所	ナスダック市場	東証					
時価総額(2023/2)	25兆ドル	17.8兆ドル	5.3兆ドル	No.1	アップル	28,280	トヨタ	2731
	42.8兆ドル			No.2	マイクロソフト	24,240	ソニーG	1143
売買代金(2022年)	30兆ドル	27.1兆ドル	5.8兆ドル	No.3	アルファベット	16,710	NTT	1032
	57.1兆ドル			No.4	アマゾン	14,350	キーエンス	1022
上場企業数(2023/2)	2,385	3,643	3,791	No.5	エヌビディア	11,030	三菱UFJ	973
	6,028				上位5社計	94,610	上位5社計	6901

(出所)野村資本市場研究所、東京証券取引所 8月9日時点

日々米国と日本の株式市場を見ているのですが、その規模感については、なかなかつかむことがなく過ぎて行っている感があります。そこで、日米の株式市場を比較して、その規模感を改めてつかんでおくことは大事です。少し調べてみると、普段いつも両方の市場を見ている私にとっても、改めて驚くものがあります。この2つの表から、米国市場の半端でない巨大さがわかります。それに比べて日本市場は小さい！ほぼ米国市場の10分の1(10%)です。昨年2022年のGDPは、米国が25兆4,645億ドル、日本が4兆2,335億ドルで米国の17%ですから、投資家は、米国市場への投資に、経済規模に比べて大変魅力を感じているということが言えます。時価総額ランキングを見れば、米国は5社が1兆ドル企業。かたや日本はNo.1のトヨタでもアップルの10分の1。他の企業は、米国企業に比べれば毛の生えたようなものです。株式市場のインフラを見ても、どうも米国の取引所の方が効率的、わかりやすい感があります。日本は株式市場が東証1部、2部から、プライム、スタンダード、グロースに変更され、投資家にとってわかりにくくなっています。東証株価指数の継続性はどのようなでしょう。また、株価は1円未満表示があり、いったい意味があるのか疑問です。また日本は、売買単位が銘柄によって違いますが、米国はすべて1株単位とわかりやすいし、日本にある株価の値幅制限は米国ではない。このあたりにも、株式市場の合理性やわかりやすさの違いが大きく出ているような気がします。「なんだかよくわからなくなっている、何とかならないものか」というのが正直な実感です。

COLUMN

日本企業のモラル低下が止まらない

ビッグモーターの不正には驚きました。企業の様々な不祥事が続きますが、ここまで来るとれっきとした犯罪です。社長、副社長(社長の息子)は早々に退任。この会社は100%株を創業者が持っている同族企業です。店の前の公共の植樹を切ってしまったことは器物損壊の罪です。そして、損害保険会社は、ビッグモーターの不正を知り一時取引を中断しましたが、十分な調査をしないまま、取引を再開したといわれています。一方で、損害保険会社は損害保険会社で、数社で談合して、東急など主要企業の保険料をすり合わせて決めていたというのです。まさにどこもかしこもという状態です。ぜひこちらをご覧ください。

No.168ニュースレター「そういえば、この会社、昔悪いことをしてたよなあー」[no168news-letter.pdf \(bfsc.jp\)](https://www.bfsc.jp/newsletter/no168news-letter.pdf)

まさに日本企業が腐った状態で、こうなるとおちおち安心して投資できません。「モラルの低下」。一方で、社会的ペナルティは甘い。不正をした企業は「人のうわさも75日」とばかりに、じっと亀のように首を引っ込め、ほとぼりが冷めると、ひょこっと顔を出し、きよきよ周囲をみて、あとは何もなかったようにふるまうのです。こういう状況は、もうやめないとはいけません。一方で、国と企業は馴れ合い。悪いことをしたら、2度と立ち上がれないほどに、社会的罰則を重くする必要があるのに、いつまでたっても、罰則が甘いので、こういう不祥事が繰り返されます。それで被害をこうむるのは、全部国民。そのうち我々まで麻痺しまうのではないかと心配になります。

MARKET

	(8月末)	(7月末比)
日経平均	32,619.34円	-552.88円 (-1.67%)
NYダウ	34,721.91ドル	-837.62ドル (-2.36%)
米ドル	145.60円	+3.30円 (+2.32%)

私の書棚より

神道の真髄は、書物の中にあるのでもなければ、儀式や戒律の中にあるのでもない。むしろ国民の心の中に生きているのであり、未来永劫滅びることも、古びることもない、最高の信仰心の表れなのである。

-日本の面影 ラフカディオ・ハーン

証券会社は、お客様の資産を増やすことで収益を上げるべき—当たり前の話

オンライン証券、野村などの対面証券を長年ながめてきていて感じるのは、「これから大変だな」ということです。私も20年以上対面証券会社に勤務していました。証券会社の世界はいわゆるレッド・オーシャンでパイの取り合い。そのパイは、人口減少が進み、若者が少なくなり、ますます先細りです。さて、こういうなか、証券会社はどうしたら生き残っていけるのでしょうか。

まずは、オンライン証券。株式の売買手数料は非常に安く、投資信託も、購入手数料なし、信託報酬も大幅に安いインデックス投信が多くなり、顧客がこういうものを買ってじっと持っていたら、どうやって利益を上げるのだろうかと感じます。おそらく株の信用取引などの頻繁な売買による売買手数料や信用取引の金利収入、高いコストの投資信託の販売、IFA(業務委託契約を結んだ証券仲介業者)との契約による収益の取り分などが収益源なのでしょう。しかし、これでは発展性がありません。本来信用取引や頻繁な売買を繰り返していたら、資産は増えず、ギャンブルに勤しんでいるようなものです。これでは賭場の提供です。またIFA(Independent Financial Adviserの頭文字)も、独立系ファイナンシャルアドバイザーと言いつつ、証券会社と業務委託締結を結び、いわば歩合の契約社員。そして飯の種は、投資信託の販売手数料や信託報酬、株式などの売買手数料、高い手数料の商品を購入してもらったり、頻繁に売買してくれれば、収入が増えるのです。

次は対面証券。私もたまに証券会社の店頭に行くのですが、この頃はほとんど店舗を統合して、支店がなくなっています。こういう店に来る人は、高齢者が多い。杖を突いた高齢者やその子供。そして聞こえてくるのが、相続の話。若者や壮年の人など見たことがありません。店舗やシステム、社員の給料などのコストを考えると、リテール(個人部門)事業はかなり苦しいと感じます。そして販売するのは、仕組債やファンドラップ。金融庁によれば、仕組債の手数料は8~10%。新聞に入っていたファンドラップの宣伝チラシを見ると、下の方に虫眼鏡でないと見えないくらい小さな字で、様々な手数料が最大1.76%、上限4.4%、最大3.755%などと、すごい数字が並んでいます。そして、仕組債が1000万円預けたら300万円になってしまったとか、ファンドラップの高い手数料を金融庁が問題視しているなどと、いいニュースは聞こえて来ません。こうなると、対面証券も大変です。大手証券は、売買手数料、高い投資信託の販売手数料によらない資産管理営業に舵を切っているとのことですが、どこまで耐えられるか、行く末が見ものです。

要はお客様を道具にして、手数料を上げるということは、経営として持続不可能なのです。お客様の資産が増えて喜んでいただき、そのなかから応分のものをいただくというモデルがもっとも全体の富を増やすことに、証券会社はそろそろ気づくべきです。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp